

会議開催記録

会議名	第 12 回 菊川市総合計画審議会
日 時	平成 28 年 12 月 14 日（水） 15：30～
場 所	菊川市役所 2 階 201, 202 会議室
出席者	審議会委員 9 名、事務局 5 名
議 事	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 28 年度進捗状況報告について 4 その他 5 閉会
議事要旨	<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互礼 ・委員 15 名のうち 9 名出席。過半数の出席により会議成立 ・資料確認 資料 1 菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略平成 28 年度進捗状況報告書（中間報告） 資料 2 平成 27 年度国勢調査結果について <p>2 会長あいさつ</p> <p>こんにちは。師走ということで、私も教師の端くれとして、走り回っています。大学も入試が年 6 回もあるようになって忙しくなりました。今日は、総合戦略の中間報告とのこと。その前に一点いいニュースです。私もいくつかの自治体の総合計画に関わっていますが、最近、ある市の幹部の方から、菊川市がタイムリーな施策を打ち出していて圧倒される、という話を聞きました。正直、びっくりしました。この会議が始まったころは、菊川市は地味で、施策を打ち出しているものの地味であるとの議論をした覚えがあります。他の自治体から見ると、最近、菊川市は輝いているとの指摘があつて、うれしく感じました。皆さんの議論に事務局が応えてくれた結果だと思えます。自分は静岡市に住んでいて西部のことはあまり情報が入ってこないわけですが、県の西部から見ると、そのように感じているとのことだったので嬉しかったです。今日はその報告もあると思うので、楽しみにしています。みなさまどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 28 年度進捗状況報告について</p> <p>事務局 : 資料説明</p> <p>会 長 : ありがとうございます。今、2 点、説明がありました。資料 1 の中間報告で、全部ではありませんが、いいパフォーマンスのものと課題があるものを中心に説明してもらいました。今の説明で質問、意見、提案等があればなんでも結構ですのでお願いし</p>

ます。

委員 : 2点、気になりました。知名度向上戦略について、ホームページ閲覧数の目標達成が難しそうだということで、確かに難しいと思います。いろいろなところへのリンクとか、我々も今菊川ジュニアビレッジをやっている、リンクを貼っていないかも知れませんが、関わっている人が意識しないとリンクを貼っていないかもしれないので、今一度、関わっている人への周知が大事だと思います。塵も積もればだんだん増えていくので大事だと思います。検索はWebサイトの歴史と、閲覧数が上がるといいスパイラルになると上に行くので、無理やりにでも一日一回クリックするように伝えるなど努力するのが大事かと思います。UI ターンのところ、一部、来年見直そうということで話し始めており、大変かと思いますが、インターンシップは受け入れ側からするとハードルが高いです。受け入れ側がボランティアになってしまいます。今回、事業で農家へ学生が手伝いに行くのでさえ、農家は子ども達に商品を触らせられないとの意見が大半でした。確かに私たちの仕事を、大学生に分析の手伝いをさせるかという教えられないですし、品質保証もありません。そういう意味では、インターンシップをどういう形で企業さんがやり易くするかは課題だと思います。IT 企業関連は1人工で受けられるかもしれませんが、難しいです。企業は人手不足なので、いいチャンスとしてワークショップ的にやるといいと思いました。

会長 : ありがとうございます。事務局からありますか。

事務局 : 意見をありがとうございます。1点目のホームページの閲覧数は、リンクを貼るようお願いするなど努力が足りないと感じているので、努力して目標を達成できるようにします。インターンシップはハードルが高いというのは、想定していた部分もあるので、ワークショップなど手法の検討をして担当課と連携して進めていきたいと思っています。

会長 : インターンシップのやり方など委員から助言などはありますか。私どもの学生もインターンシップに行っていますが、産業界に聞くと1ヶ月、2ヶ月、場合によっては半年くらいでやりたいといいます。本格的に仕事をさせたいといいます。中途半端にやってもサービスだけになってしまうそうです。でも学生を1ヶ月もインターンシップをさせるのは難しい面もあります。受け入れ側とのギャップがあります。学生はアルバイトもやっていますし、試験もあり苦しく、唯一、県大で実施しているのが、ベトナムに長期休暇期間中に派遣して、向こうでインターンシップを1週間やるということをやっています。しかし、それもパイロット的事业です。県庁ではどうしているのでしょうか。

委員 : 県としてもインターンシップは重要視していますが、受け入れてくれる企業と学生の希望とのミスマッチがあります。受け入れ企業はあるが、そこに学生が希望するの

どうか。女性は特にその傾向があります。働いて知ってもらうのは、菊川市などは特に紙面で見ただけで知ってもらえる企業ではないところがあるので、来てもらって分かってもらいと魅力が伝わると思います。この中にいる委員と学生が会う機会が多いので、PRしてもらおうといいかと個人的には思います。

会 長 : ありがとうございます。他に意見はありますか。

委 員 : 行財政改革と重複するかもしれませんが、簡単に伝えます。本題に入る前に、菊川の人口動向で、菊川市の平成 22 年と 27 年の国勢調査比較をすると、静岡県 of 5 位くらいだと思います。長泉町、藤枝市、袋井市、清水町、そして菊川市となっています。かなりトップランナーであるので、全県比較を出してもいいと思います。なおかつ、年少人口が増えているのは菊川市だけというのもつけて、やはり、希望に輝く市ということを出してもらったほうがいいと思います。2 点目です。9 ページの見方にありますが、会長と行革を指導している教授が実施していますが、PDCA サイクルがきちんと回っているところは少ないです。会長が言われたとおり、菊川市の分析が一番まともです。これが PDCA です。始めにどんな事業があつて、それに対して 27 年度実施しました、それからこんな課題があつて、今後、どう取組むのか。PDCA での課題を受けて、次年度予算をどうするか、これが PDCA の大事なところです。システム上そうなっています。菊川市は県下の中でも優れた計画書であると言えます。あとは、個別だと別の話になるので、23 ページと 29 ページだけ例を話します。23 ページは、他の委員からも意見がありましたが、私からみると魅力発信事業は、テクニックとしてアクセス数を増やすのも大事ですが、魅力事業の見方として女性目線が大事であり、若手女性メンバーの目線で売り出してもらおう視点が必要だと思います。その他にいかにも価値をつくるか。ストーリーを作るのが大事なので、全部、その目線でやるといいと思います。それから健康と美容に関連させて菊川市を売り出し、どのように価値をつけて売り出していくかを考えて、この頁の中に簡単に現れないかもしれませんが、ぜひ、そのような視点を持ってほしいです。出来ることから進めるのは、委員が言われたように、アクセス数が増えて勝ち馬ようになると相乗効果が出るので大事です。29 ページの新企業の促進と企業支援は、経済産業省でも創業支援の補助金は無駄だからやめようか、というくらい苦戦しています。実績が 44 名とありますが、一つは小出さんがやっているように人が寄ってもらうことも大事ですが、経済産業省と話をしても、中身をみていくととても創業と呼べない創業が多いとのことでした。例えば、ちょっとした食料品店であるとか、新しい価値作りに繋がる創業が意外とあるのかないのが重要です。人数が出てこないのも大事なので、質より量も求める必要もありますが、量が追えないのであれば、44 人のなかで輝くものがあればいいので、質を求めるのか、量を求めるのか検討してほしいです。あと、専門家チームで対応してほしいと思います。専門家のチームを背景をもって、つなげる力が大事なので、きちんとやってほしいです。そうすると教える方も勉強して腕があがります。技術の問題できても、在庫管理が大事であることもあります。ビジネスモデルをつくったり、出来る人とそうで

ない人がいます。専門家集団も相談がないと、どうするといったこともあるので創業をやりたいのであれば、その辺も考えて欲しいです。

会 長 : ありがとうございます。事務から何かありますか。

事務局 : 国勢調査は、委員からもあったとおり県下でもいいほうです。県が発表した資料の2番目の項目にあります。年少人口は菊川市だけ増加です。どういうことかということ、唯一、菊川市の年少人口0から14歳が0.48から0.49に増えたとのこと。順位も27年度は6位となっています。上位は、長泉町、袋井市、藤枝市、減少していますが同様に上位に位置するのが、湖西市と清水町、そして菊川市が6位となっています。この辺もいろいろなところでPRしていきたいと考えています。知名度向上については、アクセス数をカウントしていますが、シティプロモーションの観点で、全庁的に研修するなど、3つの課が中心でやっていきたいと考えています。菊川市のファンを増やしていきたい、吸引力を高めていきたいと考えています。今、その研究を始めたところです。短期に結果が出るようにしたいと考えています。

委 員 : 掛川市のPRが上手いと言われますが、掛川市はトップセールスも実施しています。新聞社を呼んで書いてくれと言っています。その辺も出来ることはやってもらえればと思います。秘訣も教えるので頑張ってください。

会 長 : 23頁の用語を説明して欲しいです。ランディングページ、テーマトレインなどです。

事務局 : 23頁の用語についてです。テーマトレインは、JR東海道本線、熱海豊橋間の電車内の広告を全て菊川市の魅力紹介広告に替えて電車を運行する取組です。JR東海、SBSプロモーションと協力し、実施したものです。ランディングページは、昨年度、魅力をPRする冊子を作り配架しました。冊子を見た人を菊川市のホームページに誘導するのではなく、冊子と連動する特設サイトを立ち上げました。そのページをランディングページと呼んでいます。今、配布した資料が昨年度作成した冊子です。冊子の裏面にQRコードを貼りまして、そこを読み込むと繋がるようになっています。

事務局 : 昨年、作って配りましたが、住宅メーカーのモデルハウスや不動産業界、また東京にも置いて、なるべくPRして、ランディングページをみれば、子育て情報などわかるようになっており市外向けですが民間の協力も得て、配布していくように、民間を回ってPRしているところです。東京では、移住センターはもちろんですが、静銀の窓口があって、相談があったら紹介して欲しいと伝えてあります。

会 長 : ついでに、主婦が幸せに暮らせる街ランキング1位と、住み良さランキング2位の説明をお願いします。

事務局 : 主婦が幸せに暮らせる街ランキングは、学研パブリッシングから出されている冊子アイネという雑誌で2014年に、実際に住んでいる方を対象にしたアンケートで主婦が幸せに暮らせる街ランキングを行っており、東海4県のうち菊川市が1位でした。全市町を対象にしてアイネが実施しているものです。住み良さランキングは東洋経済新報社が行っているもので、様々な指標、まちの指標、経済指標などを組み合わせて、数的指標を用いてランキングしたものです。2015年は県内で第2位となっています。2016年も菊川は2位となっています。県内第1位は御殿場市です。アウトレットや自衛隊があり、財政的な指標がいいとの評価でした。

事務局 : 学研パブリッシングのランキングはアンケートから住み良さをランキングしたものです。東洋経済新報社のランキングは公的データを用いてランキングしたものです。菊川市が合併した頃は21位でしたが、2015年は第2位。10年前に比べると飛躍的に順位が上がってきました。これは総合計画を着実に進めてきた結果だと、説明をしています。

会 長 : 随分と扱いが地味だと思います。もっと華々しく訴えてもいいと思います。他にありますか。

委 員 : 11頁です。平成28年度から、菊川市幼保施設整備計画の目標値を設定していますが、小笠地区の幼稚園保育園など、認定こども園にする方向なのかどうか、将来構想を聞きたいです。

事務局 : 資料の事業指標のところに、幼保施設整備画基本方針とあり、これは10年前にできた基本方針です。この時点では、原則をいくつか作りました。例えば、施設を作る際には子ども目線であるとか、できるだけ入りたい施設に入れるようにといった抽象的な基本方針が並べられているわけですが、具体的にこの園とこの園を一緒にしようという計画にはなっていませんでした。これを具体的に進めるために見直しをしているところです。見直しに先立ち、今、教育委員会を出している方針は、菊川市は子どもの数はそれほど減っていませんが、幼稚園の需要が減ってきて、保育園の需要が増えてきており、そこへきて、保育園の入園条件が緩和されたこともあり、保育園の待機児童が今年度、初めてでました。本当はもっと希望の保育園に入りたかった人は多くいましたが、調整などすることで、結果として1人の待機児童がとなりました。来年度の保育園の需要は今年度が増えて大きくなっています。そんな中で、29年度は中央幼稚園を認定こども園にして、保育園と幼稚園の両方の機能を持った施設にします。市立おおぞら幼保園を認定こども園化します。小笠南幼稚園と南保育園を一緒にして認定こども園に、東保育園と東幼稚園を一体化して認定こども園にします。ひかり保育園と北幼稚園を一体化して認定にする、これを32年度くらいまでに進めていきたい、というのが教育委員会を出している計画です。その後のことは検討段階です。

委員 : 北幼稚園はひかり保育園へ施設を動かすようになど決まっているのですか。

事務局 : そこはまだ決まっていません。ただ、施設としては北幼稚園の方が老朽化はしていません。

委員 : 菊川型農業モデルで、是非考えて欲しいのは、モデルなので他の地域も真似できるように普遍的なもの、モデルとなるものを考えて欲しいです。最近、農業については、菊川市だけではなく全体として厳しいと言われており、菊川市は元来、水田とお茶の複合経営がほとんどです。水田は圃場整備済みのところはそれなりに集積されて大規模になってきましたが、小笠方面も含めて未整備なところが相当残っています。ましてや茶園は耕地整理したところはほとんどないので、菊川の農業はどうなるのかと思います。その中で、特区のところを言っていると思いますが、そこで、部分的に茶畑を直して機械が入れるようにする、また別の部分で市民農園にするかにして、本当にモデルになるのかと思います。モデルとするためには、もう一つ何かないと、大多数の茶園が出来るかと疑問に思います。先般、象徴的な出来事がありました。農地をただで貰って欲しいとの新聞広告がでました。そんな時代です。菊川の農業をどうするかを考えてモデルを作らないと、そこ以外は依然として残ってしまいます。貰って欲しいとの新聞広告についても、合理化事業、中間管理機構などでそのような情報を持っていて、斡旋などをする筈なのに、個人であるような広告を出さざる得なかったのは、そのような制度を知らなかったのではないかと思います。農業委員会も大変であると思いますが、そのような情報を的確に掴んで、今後のモデルをどうするかを検討してほしいです。

会長 : ただで貰ってくれというのはショックですね。中小企業の構造変化も凄まじいですが、農業もそれ以上に凄まじい状況ですね。

委員 : 他市との比較では、磐田市では富士通がきて、大きな開発をしています。沿岸は地域事業会社がスズキの引越す跡地を農業利用したいとのことでやっています。磐田の竜洋の工場の真横でいちごを栽培している方がいて、その売れ行きがよく、農地を拡大したいがお金も農地もいいところがないので、磐田のシティファームに行って、一緒にやれないかと相談をして、やろうとなりました。設備はスズキが設置して、販売した中から、少しずつ返していくというスキームでやっています。私がつくったスキームですが、形として地域のみんがが出資する会社をつくっておこうということでやっています。最初はスズキサポートという子会社で地域と一緒にやる枠組みでしたが、それがなくなったら終わってしまう恐れもあったので、皆で出資した形にして、企画を守っていく受け皿を作りました。そうすると、農地をどう使おうかなど、いろいろな人の知恵とアイデアで膨らみつつあり、面白くなっています。あと、エンジニアもでてきて、農業ロボットの開発も農地でやろうとしていて、農水省から補助金を貰ってやろうとかしています。折角、特区にして場があるのであれば、ここでなければとい

うものを考えて、面白いことをできるように、いろいろな人が動き始めており、農業も面白い人がいるので、その人が集まった時に全国から見に来るようなパイロットファームがあって、モデルになるようなものがあるといいと思います。変革期なので、モデルは作れると思います。

会 長 : 農業に企業が参入できればいいのではないですか。

委 員 : 参入はできます。県内では、似たようなことで、組合化学や浜松で言えば知久とかも農地をもっているし、IAIも芝川でやっています。どのような形かは微妙ですが、株式会社でやろうとすると、従業員など資格要件を満たさないと農業生産法人をつくらないと無理ですが、いくらでもできます。モデルというのは、茶園全部に普遍的にできるものというのではなく、駄目なものは駄目ということでこういう風に駄目なようにすればいいとしてくれるといいです。斜面の茶園は木を抜いちゃってどんぐりを植える、そこに補助をすとかでもいいです。袋井市では、条件の悪い田んぼは、生産性抜きに地域で管理して欲しい、そのかわり、補助をすとか。仕分けをしつつ、特区を活かして、産業として生きられるようなモデルにして欲しいということです。

会 長 : 2つめの指標について意見がありましたらお願いします。

委 員 : 26頁のふるさと志向力を育むキャリア教育で、企業を招いて話を聞くということですが、菊川市の企業を知るの大きいことですが、若者の郷土愛を育むのであれば、ただ菊川市にある企業を知らせる志向力に留めなくて、もう少し、志向力を構造的に考えているのですが、例えば、内田百選のようなものを少し膨らませて、菊川百選としてスタンプラリーをすとか、親子で歩く事業をすとか、郷土偉人のようなものとか、偉人をうまく利用するのいいと思います。掛川などがそういったものを報徳思想として打ち出しています。関口隆吉の妹が掛川で初めて幼稚園を作ってそれをうまく利用しています。企業を中学生が知るだけでなく、郷土の素晴らしさを知った上でのふるさと志向力を考えて欲しいです。アグリ事業でも、地域の教育力が素晴らしいものがあるにも関わらず、なかなか学校がそのところに目を向けません。教師自身が地域の教育力を学ばないと、子どもを地域に出さなくなっています。教師の研修も必要と感じています。ICTに関する箇所も平成30年度にプログラミングの授業が開始されるので、教師が子どもにプログラミングを教える必要があります。

会 長 : 実践的な専門家が集まっているので、政策提言をしてもらえるのいいと思います。ふるさと志向力は、企業の教育CSRを使うべきということをいろいろな自治体で言っています。初代県令関口さんはヤマハがオルガンを製造したときに、彼が入って試作品を買って、芸術大学に音階を勉強するために、井沢さんという校長に紹介しているので、それが元でオルガンを開発できました。ぜひ、深めた形でお願いしたいです。では、いったん、意見を置いて、指標はどうでしょうか。行革の話もありましたが、指

標の評価も手法として難しいとありますが、いい提言があればお願いします。

委員：指標の関係で、基本目標も含めていいでしょうか。合計特殊出生率は、移住定住とも関わりますが、合計特殊出生率を上げるのに一番手っ取り早いのは若い男女に来てもらうことです。2つ静岡県ではパターンがあって、1つ目は袋井市のパターンは、エコパと愛野駅の街が出現して若い男女が住んだのが出生率を上げている要因です。菊川市も北側に住宅が出来てきています。周辺市町から、同じ価格帯で子育てに優しいイメージの袋井に人が移ってきました。菊川も袋井と同じようになれる可能性があります。袋井が危惧しているのが、子どもが出来たあとに、広いところに移りたいとの要望がでてくるのを危惧しています。菊川も袋井と同じようにまちができた後、定着できるように考える必要があります。伸びているときに考える必要があります。菊川市も考えて欲しいです。もう1つは基本目標3の農業も生産性をいかに上げるかが大事です。あと、指標の達成できたところと達成しなかったところで、投下資本や事業期間が十分取れたため達成できた面もあるので、達成出来ていないところも、ニーズそのものを捉え切れなかったこともあるが、外部要因なのか、投下資本が足りないのか、期間が足りないのかを分析して欲しいです。

会長：指標の評価については、テクニカルなテーマだと思うので、相談を受けましたが、意見があればお願いしたいです。

委員：いろいろな分析をやる際に、わかりやすい表現として、4象限にわけるとわかりやすいです。今回、委員の言われるとおり、コストと成果で軸が2つあると思います。コストがかかって成果があるものは第1象限、コスト低くて成果が上がったものは第2象限。一番駄目なのは、コストをかけずにイマイチに終わったものです。ここはどちらにもっていくのが難しいのですが、コストをかければいいのかとかの判断があると、PDCAが目に見える形であれば、わかりやすいと思います。

会長：ありがとうございます。目標管理の評価が難しいが、定量と定性評価があるので、指標自体は数値ですが、両委員の言われた通り、4象限で見せるのもいいと思います。評価の専門家もいて、静岡文化芸術大学の田中教授は、専門家なので相談してもいいかと思います。定性評価も行政には必要です。評価委員を専門的にやっている場合があります。少しその辺は検討してほしいです。他にありますか。

委員：前回も基準がないと言いました。達成状況をパーセンテージで表し、見える化したのは分かりやすいのですが、公表する数値は複雑にしない方がいいと思います。定性評価と定量評価を組み込んだ数値はバックデータとして取っておいた方がいいと思います。数値が出てよし、とするのは、行政の仕事として物足りないので、実際はこうであったということ、審議会で承知しておく必要があります。

会 長 : ありがとうございます。他にありますか。

委 員 : 協働センターが出来たことを一般の人が知らないので、知らせることやどのようなのかを示すことが大事だと思います。

委 員 : 分かりやすいと思います。評価の中には、B評価は極端に低くてC評価にはなっていないが、S評価もあるので、がんばっていると思います。菊川市の対外的なPRで、ゆるキャラ投票が今年あって、毎日見ていましたが、それを見ているとついつい市のホームページも見ます。切り口がいっぱいあるので、情報発信は難しいかもしれませんが、興味を持ってもらおうと、習慣的に見てもらえらると思います。

委 員 : 菊川に時代を先取るモデルを作らなければいけないと思います。ただ、今の農業の衰退の原因が、当たり前ができていないことです。削ってはいけないところを削っているのが原因です。そこを農業者が考えていない。人材が不足していると感じます。教育は小さい子どもだけでなく、大人を含め一生、教育が必要だと思います。

会 長 : 削ってはいけないところとは人材育成のことですか。技術的なものなのですね。委員から新しい試みがあるのでご紹介をお願いします。

委 員 : この中の委員にも協力いただいて菊川ジュニアビレッジをやっています。三沢地域の空家を改装して部室を整備し、耕作放棄地でハーブとごまを栽培しています。結果、ハーブはハーブティーとして9万円を売上げています。今年度は、31万円の売上げを目標にしています。ごまは油にして、絞ったかすはココペリさんでお菓子づくりをして、グラノーラとビスコッティにして販売を開始しました。18日は遠鉄の菊川で子どもが販売するので、ぜひ、買いに来て欲しいです。そのような形で、生産から商品企画、販売、報告まで経営の一連の流れを中学生に体験してもらって、生き抜く力を育むことをやっています。起業体験が生き抜く力を育むことに何故、繋がるのかというと、仮説を立て、人やものを用意してやってみる。そして課題を発見してまた仮説を立てるといったことを経験すると、生き方を見つめ直すことになると思います。学校だと得意なものを見つめ直すことはなかなかありませんが、外で人と接することで自分を見つめ直す機会になればと思います。15名が参加しており、来年、もう少し増えたいと思います。来年、営業活動しながらできればと思います。毎週、日曜日に活動しています。

会 長 : ありがとうございます。菊川市はいろいろ着手していますね。論理より実行ということで、ある市の幹部が言っていた通りですね。ありがとうございます。進行を事務局に返します。

4 その他

企画財政部長より挨拶

5 閉会

副会長 : お疲れ様でした。実は、資料をもらって、総合戦略の具体的な記述を読んだのは初めてです。これを読むと各課の担当者の苦勞が分かるところがあります。相当苦勞していると思います。そのようなこともあって市議会で活発な意見が出たと思います。1つだけ。関連する事業名については、各部各課が連絡を密にして欲しいと思います。部間で相当、練らないと1つの幹が2つになることもあるので、ブラッシュアップをして欲しいと思います。それで年間の結果が出ることを期待しています。本日はありがとうございました。

以上